

SANKAKU

サンカク

九州大学男女共同参画推進室 〒819-0395 福岡市西区元岡 744 TEL 092-802-2034 E-Mail office@danjyo.kyushu-u.ac.jp URL https://danjyo.kyushu-u.ac.jp

Contents

本紙は「ダイバーシティ・ニュース」と「ニューズレター SANKAKU」を統合して令和3年度より創刊されました。

- 特集：巻頭インタビュー「九州大学で活躍する女性たち」
- 仕事と家庭の両立・育児体験記「ワクワク・ライフ・バランス」
- 令和6年度ワーク・ライフ・バランスセミナー 開催報告
- イベント開催報告
- 数字でみる九州大学と男女共同参画（第7回）
- 発表！ 令和6年度伊藤早苗賞
- 男女共同参画推進室 蔵書紹介
- 広報誌『ポリモルフィア』Vol.11 投稿・寄稿原稿の募集！
- 編集後記

特集 巻頭インタビュー

九州大学で活躍する女性たち



大学院農学研究院

安尾しのぶ 教授

略歴／

北海道大学理学部を卒業後、名古屋大学大学院生命農学研究科博士課程を修了。2005年JSPS海外特別研究員、2007年フランクフルト大学医学部博士研究員を経て、2009年に九州大学大学院農学研究院に着任した。専門は、時間生物学とストレスに関する研究。「生体リズムに関する未知のメカニズムを発掘し、生物がもつ潜在的な能力を社会に生かす」を基軸として、健康科学、栄養学、神経科学、ストレス科学などの観点から研究を行う。2024年12月には、本学「主幹教授」の称号を付与された。

研究内容

ヒトを含めてほぼ全ての生物には、約24時間のリズムを刻む体内時計が存在しています。加えて、季節リズムや月経リズムなど、私たちの身体には様々な生体リズムが併存しています。これらのリズムは不規則な生活で乱れやすく、睡眠障

害や肥満・糖尿病、冬季うつ病、不妊症など様々な疾患と関連しています。各種リズムを生み出す機序やリズム間の連関機序について、最近では性差に着目して動物モデルを用いた研究を行っています。

研究者としてのキャリア

大学院進学時に図書館で読んだ本がきっかけで、大学院より体内時計の研究を開始しました。名古屋大学で学位取得後、ドイツのフランクフルト大学で4年間のポスドク生活を送り、2009年より九州大学に着任しました。大学院生時代の周囲は男性の研究者がほとんどで、いわゆる「男性的」な考え方に触れるたびに、私は研究者に向いていないと思っていました。ただ実験が大好きで、のびのびと研究ができる環境を求めてドイツへ渡りました。

ドイツは個人主義で「空気を読まない」社会です。最初は日本との違いに戸惑いましたが、様々な研究者や友人と交流するにつれて、「自身を大切に、かつ他者を自身と同じように尊重する」というドイツ社会の根本を理解しました。駆け出しのポスドクであった私の研究アイデアも、重鎮の教授のアイデアと同等に扱われて当然のように尊重される経験、多国籍の研究者が混在する研究室にて、多様な価値観の元で研究を進める経験などの蓄積が、私の殻を破ってくれたと思います。肩肘張らずに、古い研究者像は捨てて、自分の価値観を大事にする研究者として生きていこうと決めました。

研究の面白さ

動物個体を用いた研究では、仮説を根本から覆す奇想天外な結果が出ることもあります。学生が仮説と異なる結果を持ってくる時、大抵は言い出しにくそうに「全然仮説と違いました…」と来るのですが、私は逆に「新しい機序の手がかりかも!」とテンションが上がります。予想外のデータから誰も気づいていない機序を世界で初めて探る過程はワクワクします。稀にある発見への期待が、日々の地道な実験を行う原動力となっています。

体内時計の研究は幅広く、農学・理学・医歯薬学から心理学、数理学などを含みます。このような学際的領域で「リズム」という共通キーワードを通して多様な研究者と交流できるのは大変刺激的です。特に九州大学には生物リズム研究者が複数部局に在籍しており、定期的な交流から生まれた大型融合プロジェクトも進行中です。

若い世代へ伝えたいこと

将来やりたいことが分かっている方も分からない方も、今この瞬間に自分が大事だと思うことにしっかり取り組んでください。未来は不確実で、社会の状況やご自身の考えが変わる出来事があるかもしれませんが、今この瞬間に力を注いだという事実は確実に力になります。その力が蓄積されて、未来が創造されていきます。タイパとか将来役立つとかか理屈で考えすぎず、これやってみたい!と心惹かれるものにぜひ挑戦してください。

仕事と家庭の両立・育児体験記 ワクワク・ライフ・バランス

「育休は休暇にあらず」

大学院歯学研究院 助教 坂本 瑞樹

令和6年6月に第1子となる長男が生まれ、7月に1ヶ月間の育児休業を取得させていただきました。取得のきっかけは、仕事鬼で幼少期の私を育児できなかつた父からの「家族ファースト」という言葉と、医師である義兄の育休取得でした。

育休中は、沐浴はもちろん、泣き止まぬ我が子に歌やダンスであやしたり、慣れない朝食の準備や掃除に追われたりと、気が休まることのない怒涛の毎日でした。そんな中でも、私の腕の中でスヤスヤと眠る我が子を見るたびに、心から育休を取得して良かったと実感しました。

キャリアアップや周囲への負担などを危惧して育児参加できないということが病院に勤務する男性の本音だとは思いますが、しかしながら、決して子供の記憶には残らずとも、幼いうちに育児に関わることができる期間はほんの一瞬で、2度と経験できないものだと思えました。

男性の育休は「育休取得」が広く浸透することがゴールではなく、復帰後も継続して育児に参加できるようになることが、今後パパになる若手にとっても大変重要なことだと考えます。

最後になりますが、当院の男性歯科医師では育休取得の事例はないということで、制度や申請に関して親身にご教示いただいた総務課の御担当者様、取得をご快諾いただいた川野教授を始めとした医局の皆様、そして僕の原動力である家族に心から感謝申し上げます。



令和6年度ワーク・ライフ・バランスセミナー 開催報告

令和7年1月21日(火)、ワーク・ライフ・バランスセミナー「今こそ知りたい男性育休!～仕事と家庭のウェルビーイング～」をオンラインで開催しました。

今回は、NPO法人ファザーリング・ジャパン副代表理事の徳倉康之氏に講師をお願いし、男性の育休取得をテーマに講演いただきました。当日は、教職員や学生を含む30名の参加がありました。

ご講演では、まず、本セミナーのテーマについて説明がありました。タイトルのとおり、今回のメインテーマは「男性育休」ですが、参加者それぞれが男性育休について学ぶことで「多様な働き方や組織風土のチャンスを感じる」ことが大きな目的であると述べられました。

次に、働き方の「令和モデル」¹について説明がありました。いわゆる「働く夫と専業主婦の妻」を想定した昭和の家庭観と異なり、現在は、働き方や家族の姿も大きく多様化しています。特に、若い

世代を中心とした意識の変容や、コロナ禍で改めて見直されることとなった働き方改革にみられるように、すべての人が個々の希望やライフステージに応じた働き方を選択できる社会こそ、いま実現が求められる令和モデルだと説明されました。

そのうえで、男性育休とは、組織風土を改善するチャンスだと指摘されました。日本の育休制度は世界一²だとも評されますが、実際には、せっかく制度があるのに使えない(使いづらい)という状況が存在します。徳倉氏は、男性が育休を取得しやすい環境を作る第一歩として、まず「定時退社」と「有給取得」が重要な鍵になると説明されました。この二つは性別や年齢、家庭環境、ライフステージにかかわらず、すべての人に共通する制度だからこそ、普段から有休が取得しやすい環境を作っておくことで、男性が育休を申請しやすい心理的なサポート体制が可能になると述べられました。

最後に、これからの働き方の理想モデルとして、「育キャリ」という生き方を提案されました。従来のような「仕事か家庭か」の二者択一ではなく、「仕事も家庭も」大切に、子どもやパートナーと共に成長していくことのできるキャリアの在り方が理想であると述べられました。

ご講演後の質疑応答では、参加した学生や教職員から活発な質問が寄せられました。今回のセミナーをきっかけに、あらためて参加者それぞれが自分のキャリアやワークライフバランスについて考える大変良い機会となりました。

1 令和5年版男女共同参画白書 https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r05/zentai/html/honpen/b1_s00_00.html (最終閲覧日: 令和7年2月5日)

2 同上コラム4「我が国の育児休業制度は世界一! 男性の育児休業の変遷と背景」https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r05/zentai/html/column/clm_04.html (最終閲覧日: 同上)

イベント開催報告 1

Open Cafe 2024「九大女子卒業生に聞く 学生生活やキャリアについて」

令和6年11月2日(土)、本学の「アカデミックフェスティバル」の一環として「Open Cafe 2024『九大女子卒業生に聞く 学生生活やキャリアについて』」を松の実会との共催で開催しました。当日は、本学学生や教職員の方々にオンラインで参加いただきました。

今年度は、本学理系学部を卒業した2名の方を講師にお迎えしました。お一人は、農学部を卒業した山本有希さん(有限責任監査法人トーマツ)、もうお一人は、大学院工学府を修了した吉田梢さん(旭化成ファーマ株式会社)です。

最初に講演された山本さんは、卒業後に就職した会社を退職し、一念発起して公認会計士の受験にチャレンジ、努力の末に見事合格した経歴をお持ちです。山本さんは、ご自分の経験を振り返りながら、たくさんの選択肢から自分にとってベストなものを選ぶためには、常に努力を重ねる姿勢が大切だと述べられました。続いて講演された吉田さんは、大学院で研究の魅力に目覚め、その優秀な業績が認められ、大学院工学府を「早期修了」された方です。吉田さんは、社会人となった今も毎日がステップアップの連続だが、周囲の温かいサポートを受けながら、日々成長を続けていると述べられました。

その後、二つのグループに分かれて、オンライン上で交流会を開催しました。登壇したお二人からは、参加した学生に向けて、学生生活の過ごし方や将来のキャリアについて様々なアドバイスが寄せられました。

九州大学男女共同参画推進室主催
九州大学女子卒業生の会「松の実会」共催

OpenCafe 2024
～九大OGキャリア講演会 & 交流会～

2024 11/2(土) 13:00～14:30

場所: オンライン開催(事前登録) 会場

対象: 在学生・高校生・一般の方

参加費: 無料

九州大学男女共同参画推進室
URL: <https://www.kyushu-u.ac.jp>
Email: gender@kyushu-u.ac.jp

有限責任監査法人トーマツ 山本有希さん
2005年 農学部卒業

旭化成ファーマ株式会社 吉田梢さん
2021年 工学府修了

オンライン参加登録はこちら

イベント開催報告 2

令和6年度ダイバーシティ推進トップセミナー



令和6年12月11日(水)、ダイバーシティ推進トップセミナーを本学伊都キャンパス椎木講堂にて開催しました。本セミナーは、女性の上位職登用や意思決定過程への積極的な参画を促すことを目的として、平成27年度から、本学役員・執行部、部局長および事務系管理職を対象に毎年開催しているものです。第10回目となる今年度は、国際連合大学上級副学長/国際連合事務次長補の白波瀬佐和子氏を講師にお招きし、「ジェンダー平等からみたグローバル社会における日本の大学」と題して、日本の高等教育におけるジェンダー格差についてご講演いただきました。

白波瀬氏は、日本の高等教育における進学率のジェンダー差や、専攻のジェンダー差について、スライド資料をもとに説明されました。また、超高齢社会を迎えた日本では、ジェンダー格差の解消がゲームチェンジを担う重要な鍵となること、そのために高等教育機関である大学が果たすべき役割の大きいことを強調されました。

ご講演後の質疑応答では、マイノリティの数値目標に関する問題や、博士号取得後の若手研究者のキャリア支援について、活発な質疑応答がなされました。



イベント開催報告 3

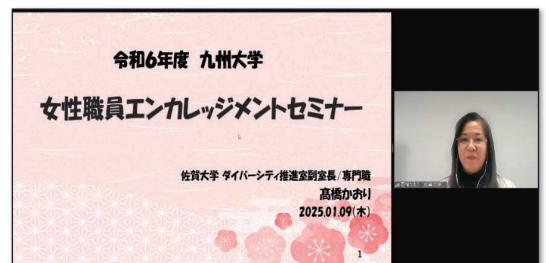
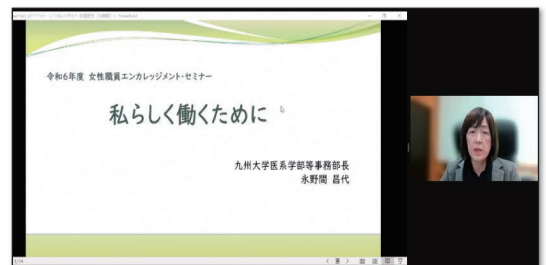
令和6年度女性職員エンカレッジメントセミナー「先輩女性管理職に聞く～第2弾～私らしく働くために」

令和7年1月9日(木)、女性職員エンカレッジメントセミナー「先輩女性管理職に聞く～第2弾～私らしく働くために」をオンラインで開催しました。

本セミナーは、本学の女性職員を対象として、上位職への登用促進、仕事に対するモチベーションアップを目的として開催しています。第4回目となる今回は、本学医系学部等事務部長を務める永野間昌代氏、そして佐賀大学ダイバーシティ推進室副室長を務める高橋かおり氏のお二人に話題提供いただきました。

お一人目の永野間氏は、大学職員として長く第一線で活躍してきたご経験を踏まえ、「人生の時間は限られている。求められること、必要とされることは幸せなこと」「自分らしさは人それぞれ。今後の人生を豊かなものにできるかどうかは、自分次第」と述べられました。続く高橋氏は、女性の管理職への挑戦を阻む理由として、ロールモデルの不足や家庭生活との両立の難しさを挙げつつ、「仕事以外にも楽しみをもつこと」「一生勉強、一生青春」と述べられました。

終了後のアンケートでは、「今後の自分の生き方を考えるうえで、とても良い刺激を受けました」「男女問わず、職位問わず、もっとたくさんの方に聞いていただきたい会でした」などの感想が寄せられました。



数字でみる九州大学と男女共同参画

第7回

23%

この数字は、令和5年度に育児休業を取得した本学の男性教職員の割合です。令和5年4月から、改正育児介護休業法の施行により、常時雇用する労働者が1000名を超える事業主は、育児休業の取得状況を毎年公表することが義務づけられています。

前年度における男性の育児休業の取得率が11%であったことから比べると、およそ1年間で、取得率は大幅に向上したことがわかります。しかしながら、1ヵ月未満の短期取得者が全体の40%を占めること、また、最新の厚生労働省の調査¹で、民間企業における男性の育児休業の取得率が初めて30%を超えたことからすれば、まだ思うように伸びていないのが現状です²。

男性の育児休業の取得では、取得する本人の意識啓発だけでなく、職場全体の理解と協力が不可欠です。これから育児休業を取得する予定のある方も、そうでない方も、ぜひ、この機会に男性の育児休業取得について考えてみませんか。

1 厚生労働省「令和5年度雇用均等基本調査」 <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/71-r05/07.pdf>

2 なお、政府は男性の育児休業の取得率について、2025年に50%、2030年に85%を目指すとする目標値を設定している。

発表！ 令和6年度伊藤早苗賞

九州大学は、平成30年度から優れた研究成果を挙げた若手女性研究者及び女子大学院生を表彰する制度を実施しています。第7回目となる今年度は、以下6名の方々が受賞者に決定しました。

若手女性研究者部門

最優秀賞 王 振英 (大学院工学研究院・助教)
"Wetting and Phase Change of Multicomponent Thermofluids"

優秀賞 柳 愛林 (大学院法学研究院・准教授)
[近代日本におけるアレクシ・ド・トクヴィルの政治思想の受容]
Maria Belén ALFONSO (応用力学研究所・准教授)
"Presence and impact of microplastic pollution in marine and freshwater aquatic environments"

女子大学院生部門

最優秀賞 中井 鴻美 (大学院生物資源環境科学府・博士3年)
[転流機構と群落不均一性に基づく次世代収量予測：収量構成情報の変動・分布の可視化]

優秀賞 逢坂 由貴 (大学院地球社会統合科学府・博士1年)
[外国にルーツを持つ親子と就学前教育の機会についての研究]
永江 菜奈 (大学院生物資源環境科学府・博士2年)
[オンガスジマドジョウの生態・生活史の解明]

令和6年11月28日(木)には、椎木講堂特別応接室にて表彰式が行われました。受賞者には石橋総長から表彰状ならびに盾、また「九州大学伊藤早苗記念基金」から副賞の研究費が授与されました。その後、受賞者による受賞内容の紹介や、石橋総長、故伊藤早苗先生のご夫君である伊藤公孝氏との懇談が、終始和やかな雰囲気の中行われました。

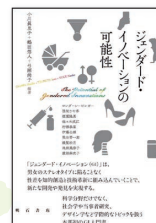


男女共同参画推進室 蔵書紹介

『ジェンダード・イノベーションの可能性』

- 小川 眞里子/鶴田 想人/弓削 尚子【編著】
- 出版社：明石書店
- 発行年月日：2024年10月10日
- ページ数：424ページ
- ISBN：978-4-7503-5799-7

2005年にスタンフォード大学のロンダ・シーピンガー博士が「ジェンダード・イノベーション (GI)」という概念を提唱して以来、今年で20年となる。我が国においても、2022年にお茶の水女子大学が「GI研究所」を創設し、新聞や雑誌等の媒体で特集が組まれるなど、GIの知名度は徐々に高まりをみせている。本書は、GI誕生の背景やその具体的な事例を踏まえつつ、社会学や当事者研究、デザイン学、インターセクショナリティ (交差性) などの学際的なトピックを扱うGI入門書である。



広報誌『ポリモルフィア』Vol.11 投稿・寄稿原稿の募集！

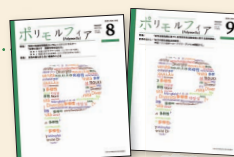
男女共同参画推進室が年に1回発行している学術的広報誌『ポリモルフィア』は、平成27年度に創刊号を刊行してから、今年度で10年目の節目を迎えました。来年度も、皆様からの投稿・寄稿原稿をお待ちしています。内容は、ダイバーシティ、男女共同参画、女性のキャリア形成等に関するものです。

募集している記事

- ①論文
- ②研究ノート
- ③資料(史料) (データ分析、翻訳等を含む)
- ④書評
- ⑤研究動向
- ⑥活動報告
- ⑦エッセイ
- ⑧その他、編集委員会が認めたもの

お問い合わせ ポリモルフィア編集委員会事務局
polymorfia@danjyo.kyushu-u.ac.jp

*ポリモルフィアは、ギリシャ語で「多様性」を意味します。
*バックナンバーは、男女共同参画推進室のHPからご覧いただけます。



編集後記

2024年10月、九州大学で新たに女性の副理事が2名誕生しました。いずれも、本学が実施する「ダイバーシティ・スーパーグローバル教員育成研修 (SENTAN-Q)」を修了した方々です。性別や年齢、職位を越えて学んだ方々が、ここ九州大学に新たな息吹をもたらしてくれることを期待します。
(男女共同参画推進室 職域限定専門職員 相良 祥子)

編集

九州大学男女共同参画推進室 企画広報環境整備部門 企画・広報WG
伊藤 裕之 (芸術工学研究院 教授)、森田 陽介 (数理学研究院 准教授)、安河内 友世 (歯学研究院 准教授)、渡邊 英雄 (応用力学研究所 准教授)、相良 祥子 (男女共同参画推進室 職域限定専門職員)

読者の声 /
をお聞かせください。
アンケートにご協力をお願いいたします。

